

報告書抄録

ふりがな	きょうとふいせきちょうさほうこくしゅう
書名	京都府遺跡調査報告集
副書名	
卷次	第176冊
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第176冊
編著者名	中川和哉・引原茂治・岡崎研一・綾部侑真・田原葉月
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番の3 Tel. 075(933) 3877
発行年月日	西暦2018年3月30日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		m ²	
平安京跡(左京一条三坊二町)	京都市上京区下長者町新町西入藪ノ内町42番地	26102	170 242	35° 01' 20"	135° 45' 22"	20150903～ 20160317 20160404～ 20170106	2,200 3,360	建物建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京跡	都城	平安～江戸	礎石建物・柱穴・溝・堀・土坑・石室・井戸	土師器・須恵器・綠釉陶器・灰釉陶器・黒色土器・瓦器・輸入陶磁器・国産陶磁器・瓦・金箔瓦・錢貨・銅製品・鉄製品・石製品	

所収遺跡名	要約
平安京跡	調査地は平安京の一条三坊二町にあたり、北側に鷹司小路が敷設されていた地点である。調査では、鷹司小路の南側溝の一部とみられる溝を検出した。このほか、平安時代の遺構としては、12世紀前半頃の井戸などを検出した。中世の遺構では、戦国時代の上京の街を守る構の堀を検出した。ほぼ正方位に沿って東西に直線的に延びる。北側には土塁があったと考えられ、調査地は、ほとんどが構の外側であったとみられる。中世の大規模な構の実態を示す重要な遺構と言える。近世初頭には、豊臣秀吉が造営した聚楽第に伴う大名屋敷地となっていたものとみられ、金箔瓦が出土している。江戸時代初期には上級町衆の宅地となっていたと考えられる。廃棄土坑と考えられる土坑群からは、瀬戸美濃系陶器や肥前系陶器などの茶道具とみられる陶器が多数出土している。輸入陶磁器も出土しており、中国製磁器のほかに、朝鮮やベトナムなどのものも含まれる。交易品の容器とみられるものもあり、この地に住んだ町衆の性格を物語るものとも言えよう。江戸時代末には京都守護職となった松平容保の会津藩上屋敷地となる。長屋と考えられる礎石建物を検出した。以上のように、平安時代から近世に至るまでの土地利用の状況がわかる、重要な調査事例である。